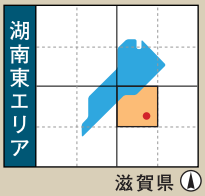
史跡
県指定

雪野寺跡（ゆきのでらあと）

竜王町川守　昭和58年3月28日指定



釈迦の死を悼み慟哭する童子像。日本美術史上に名高い塑像群の出土した雪野寺跡は、雪野山丘陵の南西麓にあります。古代寺院の集中する湖東地方にあって、特に謎の多い寺院ですが、寺に伝わる古鐘や、塔の礎石は、この寺の繁栄の様子を今に伝えています。

当時のできごと	
668年	行基生まれる
711年	蓄銭叙位の法が出される
749年	行基没す

雪野寺の遺構

雪野寺は、頂上に雪野山古墳を頂き、中腹に多数の後期古墳の所在する雪野山の南西麓の、日野川に面する場所にあります。雪野寺の法灯を伝える安吉山竜王寺は、古くは「野寺」と呼ばれ、「野寺鐘縁起」によれば、僧行基が開基し、和銅3年（710）に再建されたとあり、この鐘も奈良時代のものとされ、重要文化財に指定されています。

発掘調査の結果、1辺が13.6mの乱石積塔基壇と、講堂と考えられる建物跡が発見され、その配置から、雪野寺は法起式伽藍の寺院であったことがわかりました。出土した遺物から、この寺は白鳳時代に創建され、奈良時代に隆盛したことがわかり、ほぼ、寺伝を裏付ける結果となりました。



雪野寺遠景



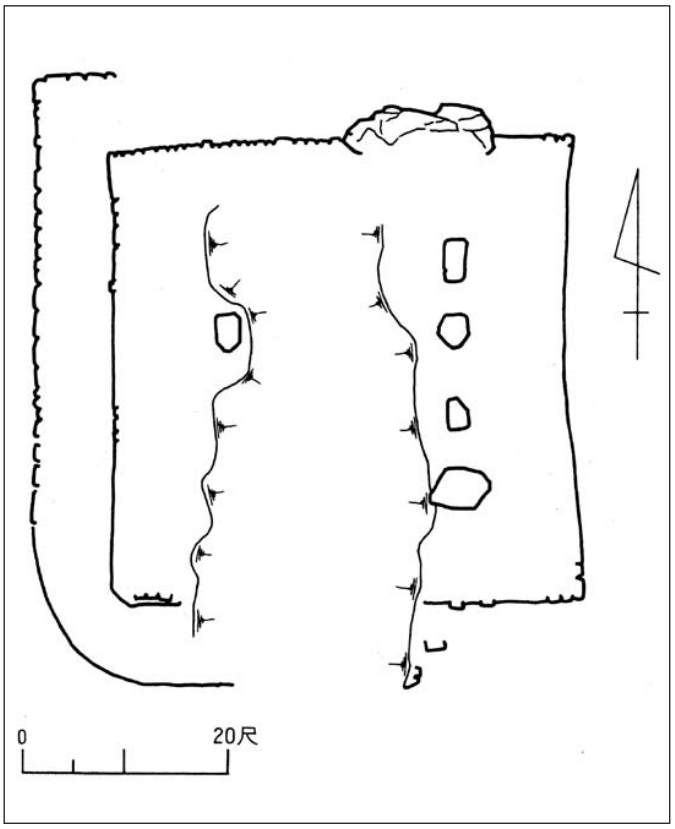
雪野寺　出土塑像（レプリカ）

雪野寺出土遺物

雪野寺は、多数の塑像が出土したことで知られています。塑像が出土したのは、塔跡及びその西北の建物跡からで、菩薩、神王、童子、女子などの塑像片が多量に出土しています。出土した像の多くは、唯一現存する、和銅4年（711）に建立された法隆寺塔本塑像と同様のものと考えられ、釈迦の涅槃に慟哭する童子の表情は、白鳳美術の粋ともいえます。

また、塔の軒先を飾る風鐸が6個の他、多数の白鳳期の瓦類が出土しています。

この寺の周辺は、古代蒲生郡安吉郷に属し、この地方の豪族である、安吉氏との関連が注目されます。



塔跡平面図



風鐸（レプリカ）

関連する文化財

宮井廃寺跡（蒲生町）	白鳳期の寺院遺跡。近江の古代寺院にあって伽藍配置がほぼわかる事例として重要
倉橋部廃寺跡（近江八幡市）	白鳳期の寺院と推定される遺跡。実態の解明は今後の課題
法隆寺（奈良県斑鳩町）	聖徳太子の建立に起源。世界最古の木造建築群として世界遺産

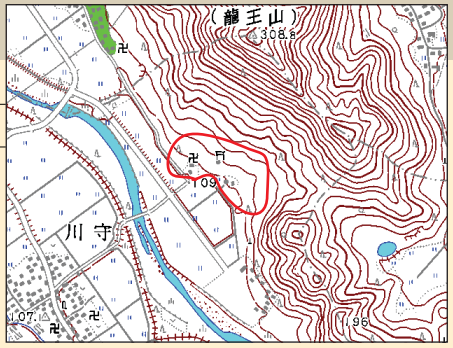
もっと深く知りたい

竜王町教育委員会　☎0748-58-1001　蒲生郡竜王町小口3

京都大学文学部博物館　☎075-753-3272　京都市左京区吉田本町

雪野寺跡へのアクセス

JR琵琶湖線　篠原駅下車
名神高速道路　竜王インター



【参考文献】〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会　〔滋賀縣史蹟調査報告1～12〕滋賀縣保勝會

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月